

令和7年度まちづくり懇談会内容

日時：令和7年12月1日（月） 13：30～

場所：福井地区コミュニティセンター

出席者：6人

- 1.開会
- 2.町長説明
- 3.懇談
- 4.閉会

【懇談・そのほか質疑など】

■泊原発再稼働	
町民	泊原発の再稼働を知事が容認したと新聞に掲載されていた。福島県二本松在住の身内の話によると、屋内のトランポリンやボールプールの遊び場が充実し、無料で利用できる半面、屋外の安全性は保障されていないなど、報道されていない内容も多いようだ。住民が声をあげると北海道は変わるという手ごたえを感じているので、この件に関しても期待している。
町長	国としては、北海道と周辺四町村に同意をいただく方向で、ニセコ町をはじめとした30キロ圏内のほかの後志管内町村には意見を聞くことは必須としていない。そのため、町としての意見については出す立場にない。また、原発関連や防災工事関連の職に就く人たちが、町内の宿を利用することで、閑散期には助かっているという声もあり、再稼働するしないの議論は難しい。ニセコ町は泊原発から30キロ圏内なので、こちらの声を聴いてほしいということは伝えている。また、地熱発電に関しては30キロ圏内なので補助が受けられている。右肩上がりの光熱費をどう下げていったらよいか。いずれも安全面やリスク管理など100パーセントはないということは重々承知の上で、総合的に判断していく。

■ワイン事業の後継者	
町民	ワイン協議会の会員になっている。農政課の協力で、富良野市のF PLANNINGから指導をしてもらっている。生育の目途が立ち、指導の効果がでている反面、醸造所が足りなくなってきたり困っている。ニセコ高校の生徒でもワイナリーをやりたいと話す生徒がいると聞いている。北海道主催のワインアカデミーでもニセコのワインが良いと認知されている。役場職員や町民にもニセコ町のスパークリングワインを飲んでもらい、4社とも有機認証を取得して高価だが美味しいワインを生産して、ワインツーリズムの確立

	へ向けて取り組んでいることを認知してもらいたい。そのためにも町の協力で醸造所を増設をお願いしたい。
農政課長	事業により効果が出ているのは町としてもうれしい。醸造所を実現できるかは分からないが支援はしていきたい。
教育長	小学校でもワイナリーで実習するなど、貴重な体験をさせてもらっている。ニセコ高校は、全道や全国から生徒が集まっており、シビックプライドを持った生徒を育てることにこうした取り組みが寄与している。
町長	ニセコ町の基幹産業は農業と観光である。農業は担い手の問題を含めて取り組んでいきたい。国営事業の成果によって収入が上がっている反面、後継者がいない問題がある。ワインは新しい農業へのチャレンジである。ワイン以外も含めて農業については今後も磨きをかけていきたい。

■国営事業終了後	
町民	国営事業は来年度いっぱい終了する予定である。終了後、整備したところには支障が出てくると思う。実際に整備から5年後に土砂でU字溝が崩れたことがある。これを修繕するとなると個人負担で何百万もかかる。国営事業終了後の補助や対策があるといい。再来年からのことを検討してほしい。
町長	終了後のフォローの必要性については認識している。要望活動の中でも現場の声は伝えている。事業は終わった後のほうが大事であると思っているので、引き続きそういった現場の声を届けていきたい。また、国と連携し、町としてどう取り組んでいくか準備をしていきたい。

■スノーモービル	
町民	昆布岳の道有林におけるスノーモービルの乗り入れについては、1年くらい前に業者から説明があり、住民の意見も聞くという姿勢であった。乗り入れについては振興局からの承認のもと行っているとのことだった。この町内でも南側のエリアは、静かで、スキー場も無く、ペンションも少ない地区で、好んで住んでいる人が多く、この辺りには水資源もある。今後何かあった時は振興局も対応すると思うが、町としても心配事が増えないように対策してほしい。20年ほど前にも同じことがあったし、また起こるかもしれないと危惧している。昔、畑や成瀬川ではクマを見かけており、この辺りにもいないわけではない。自然を脅かすようなことはやらないほうが良い。
町長	振興局からも報告がきており、町民の不安の声は振興局にも伝えてきた。振興局からも今の法令では入山規制できないと聞いている。山菜を採りに行ったり、散策したりする人もおり、スノーモービルだけを規制するというもこれまでなかった。全てパトロールすることも難しいので、道とも連携してやってい

	る。
--	----

■鳥獣駆除	
町民	昔はシカの心配をしたことがなかったが、シカの群れが畑を走っている光景を見かけるなど、シカが増えていると感じる。シカも賢くなっており、町の補助で整備した電気柵や音で脅かして追い払う方法も意味がない状態になっている。ニセコ猟友会には指導員がいて、畑のところも民家に弾が届かないように撃てると聞く。それでも蘭越町に比べるとニセコ町は雪や民家が多いので捕獲できる数が少ない。仲間が殺されるとシカは来なくなる。何か新しい対策を考えるべきだ。
農政課長	シカについては実際にはかなりの数を駆除している。今後もこれ以上増えないように駆除していく。猟友会は町内のくくり罠設置や巡回など、必要に応じて対応しているが、場所によってはきめ細やかに確認に行けていない場所もある。
町長	猟友会の方も専任ではないし、人手が足りない。広域連携していくことで解決できるかもしれない。

■鳥獣駆除	
町民	アライグマの箱罠に最近キツネがかかることが多い。猟友会にお願いしてもキツネは駆除できないといわれた。自分で箱罠から放してあげることは難しいが、何とかならないか。
農政課長	駆除には許可が必要である。猟友会に相談する。
町長	免許の種類などが関わる話なので、猟友会にも確認する。
農政課長	(追加回答)キツネが錯誤捕獲されるケースが多いと、猟友会からも聞いている。現在駆除許可を出していない理由は、猟友会発足時(平成26年)において、農業被害が少なかったことや、現在においても保健福祉課においてベイト散布を行っているため人的被害も見込まれなかったこともあり駆除対象としていない。そのため駆除対象とした際、従来どおりベイト散布を続けていくこととするのかどうかも含めて協議が必要である。冬季のため年度内は箱罠での捕獲は難しい。全町的な状況を確認した上で、令和8年度からどうしていくべきか協議する必要がある。

■人口	
町民	今年の国勢調査でも人口が200~300人増えるとのことだが、ほとんどが外国

	<p>人で日本人が増えていない。差別するわけではないが、日本人が増える手立ても必要ではないか。ニセコは静かで環境が良くて住んでいる。最近は空き家や土地を探す人の話をたくさん聞く。活用して住むのはいいが、元町のように民宿ができて影響を及ぼすようなことはどうなのか。それをチェックできるのは景観条例であり、計画段階から説明してもらえることはいいシステムである。景観条例の適用範囲がもう少し広がるように検討してもいいのではないか。</p>
町長	<p>過去の統計を見ても日本人が減っていることは認識している。このままでは将来空洞化するという危機感がある。市街地で民泊が増えていることに対しては行政として手立てを考えなければいけない。例えばインセンティブが働くような仕組みや仕掛けを講じるなど、検討が必要である。</p>
企画環境課長	<p>移住施策は、外国人を積極的にということではなく、広くPRする取り組みを継続的に実施している。協力隊もほかの自治体よりも多く、さまざまな取り組みをしている。開発に関しては、道が許可を出したあと町に情報が来るという仕組みを変えられたら良い。企画環境課では建築の届け出をもらっており、一般住宅含めて件数は多くないが家が建つ予定などの情報は掴んでいる。町としても情報を把握できれば、さまざまな対策や検討ができると考えている。</p>

<p>■ 綺羅乃湯</p>	
町民	<p>綺羅乃湯は、助成制度により高齢者は100円で入れるが、この辺りは幽泉閣が近いので、幽泉閣も100円で入れるといい。福井地区から綺羅乃湯まで行くと往復で400円かかる。綺羅乃湯がこの辺りで一番安い。周囲の他の温泉を見ても1000円以上して、お風呂に入る感覚で行くことができない。幽泉閣では去年、入浴者数のキャパシティを超えていて混雑していた。なにか検討することはできないか。</p>
町長	<p>幽泉閣は運営主体が蘭越町なので、意見を言うことは難しい。綺羅乃湯が安いのが故に混雑し、町民が来館を躊躇するのは、本来の期待する役割ではない。町が運営しているわけではないので相談が必要であるが、価格設定について話をしている。幽泉閣では町民割を導入しているが、綺羅乃湯では、羊蹄山麓など相互に行き来しやすくなるような取り組みなどを検討し、広域に連携し、利用できるが良い。綺羅乃湯はコミュニティの役割もあると思うので、高校生が地元の人と触れ合う機会にもなる。浴槽のない高校寮で生活する高校生も大人料金がかかるので、アルバイトしてその分入浴できるとか、何かしらの配慮が必要と考えている。地元の人が利用しやすく、綺麗さを維持していけるのが本来の綺羅乃湯であるので、単に補助するというだけではなく、いい仕掛けができないか考えている。</p>

■道路脇の樹木の伐採	
町民	道路わきの木について、2～3年くらいの細い木はいいが、太くなり根を張ると畑の淵などがかけたりしてくる。町で砂利を敷き、対策してくれているものの、大きくなるとお金がかかるし、台風が来ると根こそぎ倒木する危険性も高まるので、大きくならないうちに間伐するほうが良い。自分の土地の太いナラの木は、町に相談して届くところは切ってもらったが、建物に影響しかねない、落氷や窓ガラス破損の恐れがある一番切ってほしいところは切ってくれなかった。弁護士に相談したうえ、特殊伐採で12万円かけて切ることにした。そうしたところが多いので認知してほしい。防除する機械で道路を走っていると、枝が道路に出てきていて道路脇に寄って走ることができない。人の土地の木だと切れないと思うが、道路にかぶっているところが多い。
町長	所有者のものになるので、町では切ることはできない。

■除雪	
町民	ブドウを育てるところにワイヤーを張る支柱があるが、拡幅除雪の際に折られた。町に言ったが、証拠がないと言われた。カメラを付けるなど対応しなければならないのか。支柱は3,000円、送料は10,000円かかる。金額の問題ではないが、もう少し町が道路に対して責任を持つべきではないか。
町長	まちづくり懇談会を含めて意見、問い合わせは継続して行い、善処する。予算的にも人的にも余裕がない限られた中でやっているということを知りたいた中で、どうしたらよりよい町になるか担当職員と一緒に議論していきたい。

■開発	
町民	観光が盛んになって収入が人が増えている。町民が豊かになると良いが、犠牲になるのはどうなのか。典型的なのはハワイで、もともと住んでいて人が追いやられて豊かな生活をしていない。町民が豊かになることが保証されない限り、さまざまな事業に手を出すべきではない。有島にチョコレート工場ができて、有島記念館の入館者が増えるといいが、その分町民が犠牲になる部分がある。開発がダメだとは言わないが、町民が豊かになることを基礎に据えて調和がとれた開発でなければならないと考えている。歴史的には倶知安町の乱開発を見て学んで、準都市計画を作っている。おかげで随分守られているが、開発の範囲が広がって来ているので、今のままの範囲でいいのかという根本的なところを見ていかなければならない。
町長	ニセコ町には都市計画がないため、土地売買規制などを示すことができず難

しい。その中でも、同規模自治体と比べ、景観条例など独自の条例でできる範囲で乱開発課題に取り組んできている。環境保全に対しても強固に取り組んできたが、現状おいついていないということも踏まえて、検討していかなければいけない。時間をかけて根本解決につなげるような方針を示していかなければ、課題解決につながらないと思っている。また、企業誘致に関しても、丁寧に議論していく。開発を一切やらないということになると、人の動きが途絶えてしまい、町の持続、維持していくことも難しくなってくる。工場、ホテル、住宅なら良いのか、バランスや調和をとりながら丁寧に議論していく。簡単なことではないと認識しているが、さまざまな壁を乗り越えていかなければならない。前例に倣うのではなく、見直しをかけてでもやるべきに値することである。